

「ステージは『世界』だ!」～岡山発グローバルリーダーの育成～

岡山県立岡山城東高等学校

～ 持続可能な郷土岡山の実現に向けて ～

- グローバルな視点を持ちながら地域に根差し地域社会を支える人材
- 郷土や日本への貢献意識を持ちながら、国際社会で活躍する人材

目指す人材像

育成したい
資質・能力

創造的・批判的
思考力

高度な
英語運用能力

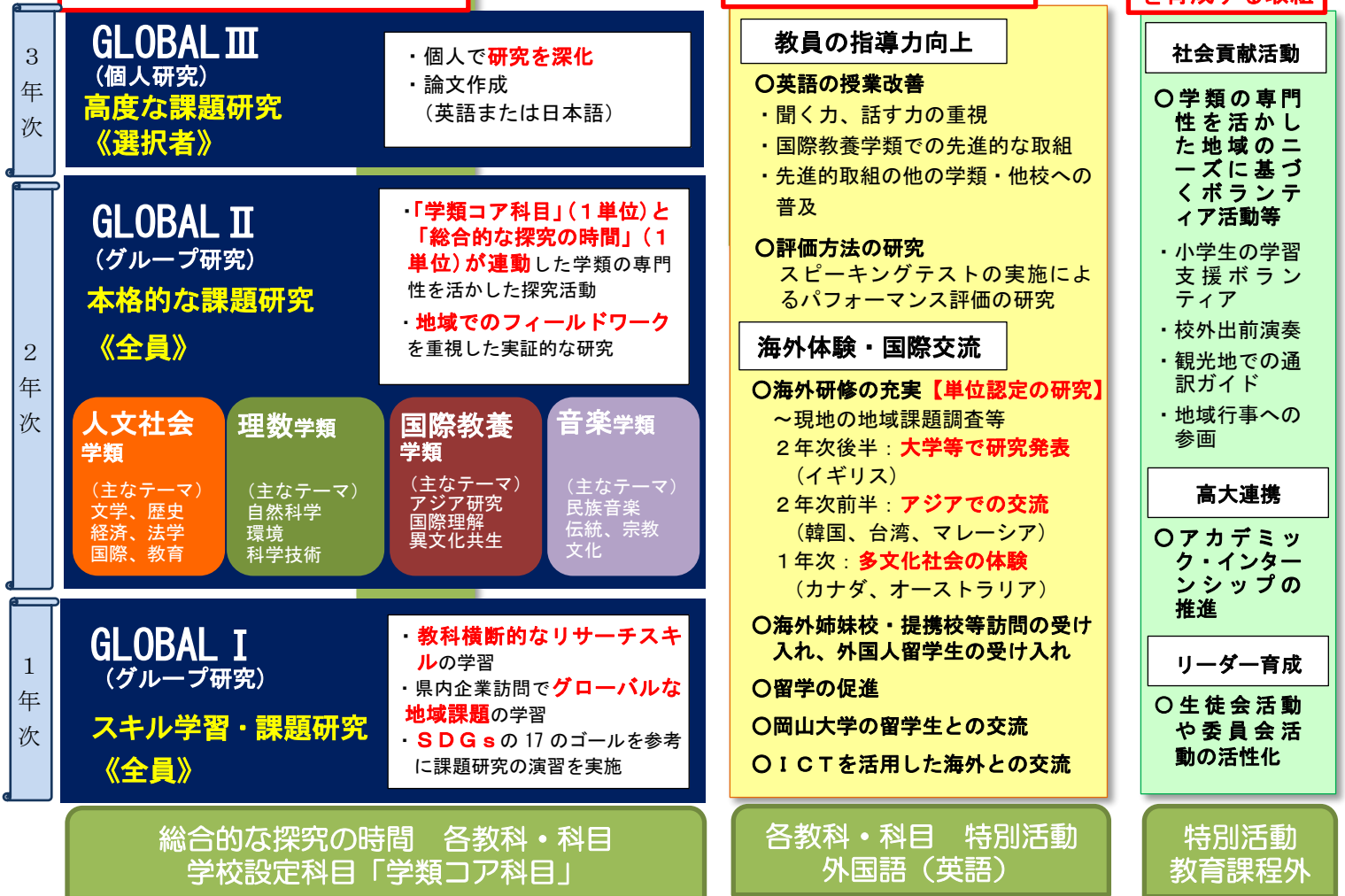
グローバルな視野
と多様性の理解

自主的・自律的な
行動力と社会貢献意識

地域密着の課題研究

異文化交流の深化

自主性・自律性を 育成する取組

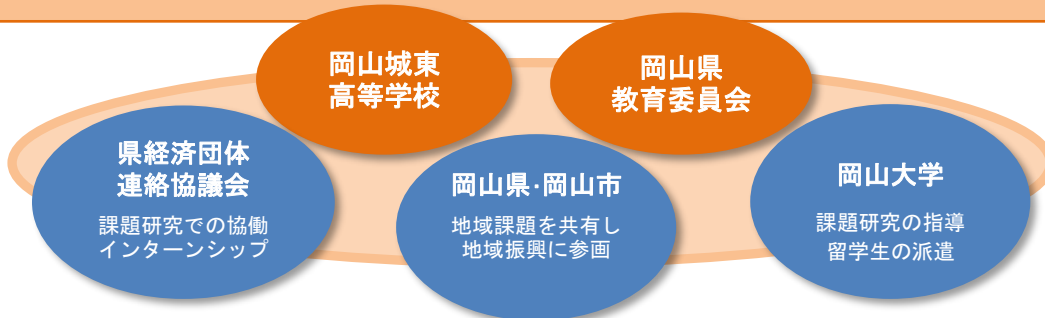


総合的な探究の時間 各教科・科目
学校設定科目「学類コア科目」

各教科・科目 特別活動
外国語(英語)

特別活動
教育課程外

コンソーシアム 岡山県内の関係機関と連携しながら、県全体をフィールドとして生徒が活動



これまでの取組 (スーパーグローバルハイスクール H26～H30)

成果

- ・ 課題研究に必要な基礎的スキルの定着
- ・ チーム力やプレゼン能力の向上(異力の統合)
- ・ 海外研修等による異文化理解の深化
- ・ 思考力や言語活動を重視した授業改善

課題

- ・ 地域の理解や**地域との関わり**
- ・ 課題研究と**学類の強み・専門性**との関連
- ・ 英語力強化の取組と**全校・他校への普及**
- ・ 課題研究等で得られた知見を生かした**自主的な実践**

ふりがな	おかやまけんきょういくいいんかい	ふりがな	おかやまけんりつおかやまじょうとうこうとうがっこう
管理機関名	岡山県教育委員会	学校名	岡山県立岡山城東高等学校

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：岡山県教育委員会

代表者名：教育長 鍵本 芳明

(2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：岡山県立岡山城東高等学校

学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：前川 隆弘

2 取組内容

岡山県教育委員会では、「第2次岡山県教育振興基本計画」（平成28年2月策定）において、「心豊かに、たくましく、未来を拓く」人材の育成を基本目標に掲げ、「自立」「共生」「郷土岡山を大切に作る心」を育みたい資質・能力としており、「国際化に対応した教育の推進」や地域と高等学校が協働して教育活動に取り組む事業を実施しているところである。

今回、指定を希望している岡山城東高等学校は、時代の要請に応える新しいタイプの学校として昭和62年に設置された学校であり、これまで本県のグローバル人材育成のための教育を先進的に実践してきたリーダー校である。

今回の事業においては、都市部の大規模校である岡山城東高等学校において、岡山県全域を「地域」として捉え、地域人材育成に資する地域課題の解決等に向けた研究を中心とした教育課程の研究開発を実施する。

その際、スーパーグローバルハイスクール（以下「SGH」という。）での成果を継承しつつ、地域への理解や地域との関わりを深めるなど、管理機関と連携しながら、地域との協働による探究的な教育活動の在り方を研究する。

この事業における学校の研究開発の三つの柱は、「地域密着の課題研究」「異文化交流の深化」「自主性・自律性を育成する取組」とする。各教科、総合的な探究の時間、生徒会活動等の特別活動及び部活動等の教育課程外の活動を有機的に結びつけながら、持続可能な郷土岡山の実現に向けて、自主的・自律的に課題解決に向かう態度や資質・能力を身に付けさせ、グローバルな視野と郷土の理解を通じた地域貢献意識を備えたグローバルリーダーや、地域を支えるグローバル人材の育成に向けて、新規性のあるカリキュラムを開発する。

地域に対する深い理解に基づいたグローバルな視野は全ての高校生に習得させたい資質であり、国際社会及び地域社会のリーダーに求められる資質でもある。研究開発の柱の一つである「地域密着の課題研究」を特に重視し、生徒が地域でのフィールドワークを活用して現場に自ら出掛け、現状から課題を見出し、課題解決に向けて行動を起こす体験を高校時代から繰り返し積み重ねる取組とする。この事業により身に付けさせたい具体的な資質・能力は、「創造的・批判的思考力」「高度な英語運用能力」「グローバルな視野と多様性の理解」「自主的・自律的な行動力と社会貢献意識」とする。

コンソーシアムは学校が開発していくカリキュラムに対して、それぞれの専門性を生かした指導助言と資源の提供を行い、運営指導委員会は学校やコンソーシアムの取組に対する評価を行うとともに、専門的な知見に基づいた指導助言を行う。新規性のあるカリキュラム開発の実現に向けて、学校はコンソーシアム及び運営指導委員会から支援を受けたり意見交換したりしながら、カリキュラム・マネジメントを図る。管理機関は、学校とともに、三年間の事業を通して、学校が目指す人材育成のための教育活動を整理し、岡山県の先進的事例となり得るカリキュラムを確立し、他の高等学校等へ成果普及を行う。

3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
岡山県	知 事・伊原木 隆太
岡山市	市 長・大森 雅夫
岡山県経済団体連絡協議会	座 長・中島 博
岡山大学	学 長・榎野 博史
岡山県立岡山城東高等学校	校 長・前川 隆弘
岡山県教育委員会	教育長・鍵本 芳明

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

コンソーシアム及び運営指導委員会に県内大学関係者、産業界関係者、県知事部局関係者、学校所在地の市長部局関係者及び県教育庁関係者を含めることで、学校が地域の様々な意見を直接知ることが可能にする。また、コンソーシアム運営会議及び運営指導委員会を将来の地域ビジョンや地域が求める人材像、生徒が求める社会像等について共有、協議する場とする。

その他、地域協働学習実施支援員や海外交流アドバイザーには、県全体の状況を俯瞰して捉えて、学校を支援することができる県関係者を配置し、学校では同窓会との連携も強め、意見を求めたり支援を受けたりできる体制を構築する。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

コンソーシアムに属する機関がそれぞれの専門性を生かしながら、生徒に対して課題研究等を進める際のフィールドワークの場を提供し、活動の支援を行う。また、学校の研究に対して専門的知見から指導助言を行う。管理機関は、コンソーシアム運営会議を年3回開催し、学校における研究開発の充実に役立てるとともに、事業の進捗管理を行う。

(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

海外交流アドバイザーは3名配置することとし、学校が持続可能な支援を受けられるよう、岡山県県民生活部国際課職員2名（国際交流推進員）及び岡山県教育庁高校教育課指導主事1名を充てる。学校とコンソーシアムを繋ぐ役割を担う。

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

地域協働学習実施支援員は2名配置することとし、学校が持続可能な支援を受けられるよう、岡山県教育庁生涯学習課社会教育主事1名及び高校教育課指導主事1名を充てる。学校とコンソーシアムを繋ぐ役割を担う。

(6) 運営指導委員会の体制

地域人材育成に資する地域課題の解決等に向けた研究を中心とした教育課程の研究開発を行うため、大学関係者、産業界関係者、報道関係者、地域関係者等で幅広い意見を受けられる体制とする。また、岡山城東高等学校のSGHでの研究の成果も活用しながら、この事業でのカリキュラム開発等の研究の発展・充実を目指すこととし、SGH運営指導委員からの継続者を含めて構成する。

【運営指導委員会構成メンバー（6名）】

氏名	属性／所属	主な役割
岡本 弥彦	大学関係者／ 岡山理科大学教授	課題研究の手法に関する指導
小川 正人	大学関係者／ 環太平洋大学次世代教育学部国際教育学科長	グローバル人材育成に関する指導 探究的学習に関する指導
神崎 浩二	産業界関係者／ 岡山県経済団体連絡協議会事務局長	産業界が高等学校に求める教育の在り方に関する知見
国定 啓人	報道関係者／ 山陽新聞社編集局編集委員室次長（編集局局次長）	グローバルな社会課題、地域課題に関する知見
杉山 慎策	大学関係者／ 就実大学名誉教授、就実学園相談役	グローバル人材育成に関する指導 高度な英語力の育成に関する指導
谷一 尚	地域関係者・大学関係者／ 一般財団法人林原美術館長 山陽学園大学副学長	地域文化に関する知見 グローバル人材育成に関する指導

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

学校は毎年度、課題研究発表会及び成果報告会を実施する。いずれの会も他の高等学校等や地域へ公開することとし、研究成果の普及を図るとともに、研究の改善や事業成果の検証を行う。

管理機関は運営指導委員会を年2回開催し、運営指導委員からの評価や提言を踏まえ、研究計画の検討や研究の実施過程について検証を行い、コンソーシアムの取組の改善を図る。

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

(ア) 管理機関

- (a) 有識者等で構成する運営指導委員会の設置
- (b) 管理機関の指導主事等によるカリキュラム開発に関する指導助言
- (c) 高大連携を活用したカリキュラム開発研究に対する支援
- (d) 韓国慶尚南道との教育交流の協定締結の活用
- (e) 学校内の教職員体制における人的な支援

(イ) コンソーシアム

- (a) コンソーシアム運営会議での事業検討
- (b) 地域との協働による探究的な学びの場の提供と実践に関する支援

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

岡山県では、岡山県立学校にコミュニティ・スクールを導入できるように平成31年度前半には規則改正を行う予定であり、岡山城東高等学校のコンソーシアムをコミュニティ・スクールに移行することの検討も含めて、管理機関とコンソーシアムが連携した、学校の取組支援体制の継続を図る。

(ア) 管理機関による、人的支援等の継続

地域人材の育成に必要な教員数の確保や、専門性を考慮した教員配置

(イ) コンソーシアムによる、地域との協働による探究的な学びに関する支援の継続

学校、管理機関との協働体制の継続、維持

(ウ) 学校による成果の普及

- (a) 他の高等学校教員等への効果的な指導のノウハウや実践事例の周知（課題研究の成果発表やポスターセッション等）
- (b) 授業公開や研究協議を実施（日常の教育活動や生徒の学習の様子を積極的に公開）

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	おかやまけんりつおかやまじょうとうこうとうがっこう				②所在都道府県	岡山県
2019～2021	①学校名	岡山県立岡山城東高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	設置学科：全日制普通科 在籍者数：1,030名 (令和元年5月1日現在)	
普通科	320	357	353		1,030		
⑥研究開発構想名	「ステージは『世界』だ！」～岡山発グローバルリーダーの育成～						
⑦研究開発の概要	<p>学校設定科目「学類コア科目」と総合的な探究の時間「GLOBAL I・II・III」を教科横断的に連動させ、地域と連携して、郷土岡山の地域課題を踏まえ、本校の類型である学類の専門性を生かした課題研究に取り組む。並行して、海外研修の充実、留学の促進、海外姉妹校等からの訪問の受け入れや英語教育の改善により、グローバルな視野と多様性の理解、高度な英語運用能力を育成する。また、学類の専門性を生かした地域ニーズに基づくボランティア活動、生徒会活動の活性化により、自主性・自律性を育成する取組を強化し、持続可能な郷土岡山の実現に向けて、将来、地域社会を支えたり、国際社会で活躍したりする「岡山発グローバルリーダー」の育成カリキュラムを開発する。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>郷土岡山の創生のために、次代を担う多様性を理解したグローバル人材の育成が求められている。そこで、海外や地域社会で活躍する人々から文化や社会の多様性やグローバルな地域課題について学び、その解決に向けた地域でのフィールドワークを重視した課題研究に取り組む。それを通じて、将来、郷土や日本への貢献意識を持ちながら国際社会で活躍したり、グローバルな視点を持ちながら地域に根ざして地域社会を支えたりする、自主的・自律的に行動できる人材を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>(ア) 現状の分析</p> <p>本校では、平成26年度からSGH事業に取り組み、グローバルな視野と主体的・協力的な実践力を備えた人材を育成する研究開発を行ったが、課題として、地域でのフィールドワークを含む地域密着の取組が少なかったこと、異文化理解のための英語活用能力を十分に身に付けさせることができなかったこと、地域社会の持続的な発展に積極的に参画しようという態度の育成と活発な実践には至らなかったことなどが挙げられる。</p> <p>(イ) 仮説及び期待される効果</p> <p>仮説1 「課題研究」と学類を特長付ける「学類コア科目」等とを教科横断的に関連付けた新しい学びのカリキュラムを開発することによって、生徒の創造的・批判的思考力を育成することができる。</p> <p>仮説2 「異文化交流」を深化させるため、聞く力、話す力を重視した英語運用能力を育成する指導法の開発を海外研修及び国際交流事業と関連付けることによって、生徒の高度な英語運用能力、グローバルな視野と多様性の理解を育成することができる。</p> <p>仮説3 学類の特長を生かしたボランティア活動の在り方等について、生徒主体の企画等も含めて研究することにより、生徒の自主的・自律的な行動力を育成するとともに社会貢献意識の醸成に繋げることができる。</p>					
		⑧-2 具体	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>(ア) 地域密着の課題研究</p> <p>(a) 「教科・科目」と「総合的な探究の時間」との関連を図った指導の展開</p>				

<p>的 内 容</p>	<p>「学類コア科目」等で学類の専門性を高めるとともに郷土岡山の特色に関連した探究課題を発見させ、総合的な探究の時間における課題研究に関連付ける。</p> <p>(b) 地域との連携の在り方 1年次での企業訪問（全員参加）や県主催の企業説明会等を通じてグローバルな地域課題を学習し、2年次は地域におけるフィールドワークを重視し、グローバルな地域課題の解決に向けた実証的な研究を行う。</p> <p>(c) 学習形態の工夫 1年次・2年次における課題研究をグループ研究で行い、生徒同士のコミュニケーションが活発に行えるようにする。また、全体発表会や論文やレポートの作成等により、創造的思考とそれを支える論理的思考が高められるようにすることで、3年次の高度な課題研究（選択者、個人研究）に繋げる。</p> <p>(イ) 異文化交流の深化 (a) 聞く力、話す力を重視した高度な英語運用能力の開発 ・三年間の指導過程・指導内容の策定 ・指導法の改善（校内研究授業：年3回、授業公開：年3回） ・評価方法の開発 (b) 海外体験・国際交流の充実 ・海外文化体験研修（カナダ・オーストラリア）【単位認定】、海外学類研修（韓国、台湾、マレーシア）、海外修学研修（イギリス）【単位認定の研究】 ・長期留学生受け入れ及び姉妹校等との交流の発展（韓国：慶南外国語高等学校、金海外国語高等学校） (ウ) 自主性・自律性を育成する取組 (a) 学類の専門性を生かした地域ニーズに基づくボランティア活動 ・小学生の学習支援、校外出前演奏、観光地での通訳ガイド、地域行事への参画 (b) 生徒会活動や委員会活動の活性化 ・生徒主体の企画運営や地域NPO法人との連携 (c) アカデミック・インターンシップの推進 (d) 各種コンテスト・セミナーへの参加等 (e) 運営指導委員会への生徒代表の出席等 (2)カリキュラム・マネジメントの推進体制 (ア) 推進体制 (a) 課題研究：カリキュラム開発係が中心となって、地域連携係と協働で学習活動の内容及び進め方について開発を行う。 (b) 異文化交流の深化：国際交流係と外国語教育推進係が協働で学習活動の内容及び進め方について開発を行う。 (c) 自主性・自律性を育成する取組：地域連携係が中心となり、カリキュラム開発係と協働で学習活動の内容及び進め方について開発を行う。 (イ) カリキュラム・マネジメントの視点 (a) 実施状況の評価・改善を図る方策 月単位～年単位の期間の中で、各係単位から推進委員会までが定期的に進捗状況を確認できるようにする。 (b) 必要な人的又は物的な体制を確保し、その改善を図る方策 ・県内全域との連携による学習を支援するため、地域協働学習実施支援員の協力を得ながら、地域連携係が、コンソーシアムとの連絡・調整を行う。 ・海外研修の新規企画など海外との交流に係る業務について、海外交流アドバイザーの協力を得ながら、国際交流係が、連絡・調整を行う。</p> <p>(3)必要となる教育課程の特例等 該当なし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>特記事項なし</p>